

# 研究結果報告書

## 近代日本におけるナショナリズムとアジア主義との交錯及び日中関係への影響

所属：上海師範大学 外国語学院 日本語学科

役職：準教授

氏名：劉 峰

### 一、研究活動

1、資料調査、収集のために東京、千葉、京都、沖縄へと出張。具体的には、関東地方で国立国会図書館、国立公文書館、外務省外交史料館、東京大学、防衛省防衛研究所、早稲田大学、千葉大学を訪問し、日本ナショナリズムとアジア主義の代表人物や団体の関連史料を調査収集して研究書籍を購入した。京都と沖縄では、京都大学と琉球大学へ蔵書・史料の状況を調査に行った。

2、中国国内の出張先は雲南、湖南、安徽、杭州。具体的には、雲南で中国日本史学会のシンポジウムに参加して研究成果を口頭発表。湖南、安徽、杭州では資料の調査と収集（例えば近代中国におけるアジア主義への評価などの史料）、そして研究者たちとの交流、討論を行った。

3、今住んでいる上海は出張先ではないが、上海市内での移動は頻繁で、具体的には上海市図書館、上海市資料館、上海交通大学、復旦大学、華東師範大学、上海師範大学といった研究機関や大学で資料調査、収集、複写など、そして研究者たちとの会議や交流、討論などを行った。

### 二、研究結果

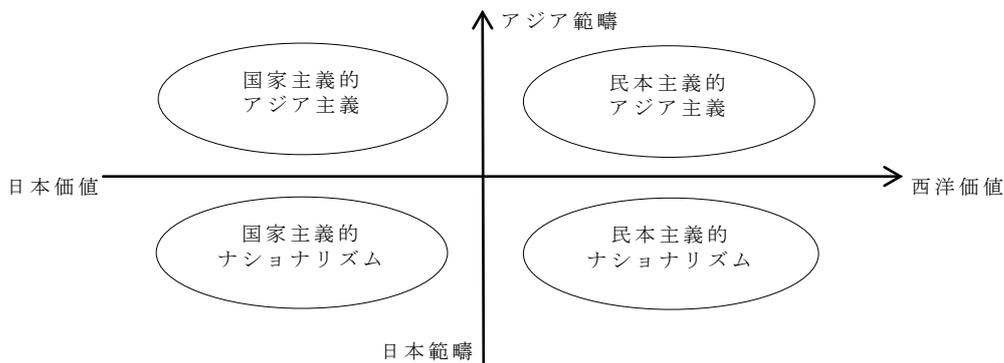
#### 1、日本ナショナリズム、アジア主義における二面性及び「普遍と特殊」

①近代日本のナショナリズムは誕生以来、「開国＝西洋肯定」と「攘夷＝西洋否定」という二面性を有していると言われている。そのため、①近代化の過程の中で「欧化ナショナリズム」（市民性、Civic、反普遍的特殊）が形成してきた一方で、②前近代社会への「追憶」を基にした「国粋ナショナリズム」（族群性、Ethnic、反特殊的特殊）も生まれてきた。

②ナショナリズムの外縁は弾力的なものであるため、外部へと拡大していく過程の中で、近代の「日本＝アジア」という思考様式の影響を受け、その二面性はさらにアジア主義に導入されていった。つまりアジア主義には「民本主義的アジア主義」（反普遍的普遍、吉野作造ら）と「国家主義的アジア主義」（反特殊的普遍、大川周明ら）という二側面があった（付図参照）。

上記内容を基にした論文は2018年後半、『上海師範大学学報』で発表される見込（査読有り）。

付図：



## 2、大川周明の思想理論からみたナショナリズムとアジア主義との交錯

大川の思想理論を一例として考察してみれば、両者の関連性は三つの側面より具体的に把握できるであろう：①両者とも日本社会の近代化と共に形成してきた歴史的動向。外見では異なっているが、「近代化への賛同」という近代主義的な本質では一致している。②両者は「物質主義＝欧米」を仮想敵と見做しながら「精神主義＝アジア（日本）」として共通している。③大川が唱えていた所謂「道義」というものは両者の理論的媒介。つまり「ナショナリズムを利用して国家改造を行い、改造によってアジアへの『道義』を確立し、さらに『道義』によってアジア主義を実現させよう」という理論的連環、そして「道義＝大乘＝精神主義＝アジア・日本 VS 功利＝小乗＝物質主義＝欧米」という対立図式が存在していたと言える。

上記内容を基にした論文は既に2017年12月、『世界歴史』で発表された(査読有り)。

## 研究成果の公表について

### 口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「明治前半期における『アジア主義』の概念と性質」・劉峰・第三回上海師範大学・名古屋大学学術交流会・2017年3月・上海。
2. 「論大正運動時期澤柳政太郎的政治思想」・劉峰・上海市世界史学会 2017年学術年会及第十二届青年論壇・2017年5月・上海。
3. 「日本大正末年社会転型期的東洋共存会」・劉峰・中国日本史学会「日本社会的転型与中日関係」学術研究会(シンポジウム)・2017年7月・昆明(雲南)。
4. 「1920年代における国家改造思想と『アジア主義』との交錯」・劉峰・第四回上海師範大学・名古屋大学学術交流会・2018年3月・上海。

### 論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

1. 「近代日本拡張主義意識形態的兩種類型——以大川周明思想理論為中心」・劉峰・『世界歴史』・2017年12月。査読有り。
2. 「近代日本民族主義的双重性格与『アジア主義』——以大正時期為中心的考察」・劉峰・『上海師範大学学報』・2018年9月(見込)。査読有り。

### 書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

1. 『近代日本の亜洲主義与民族主義』・劉峰・社会科学文献出版社・2018-2019年(まだ出版担当・責任者と交渉中、具体的な発行時期は未定)。